

会やワーキンググループで議論してきた結果、運営に関する制約が大きく、手続きも煩雑ではあるけれども、社会的信用もあり税の優遇がある公益法人を選択しようということになったそうです。また、現在かなりの数の社団法人が存在するため、余裕をもって申請することが無難であり現在その過程を進めているとのことでした。

内容について、現行定款との変更点についての説明がなされました。その幾つかをあげると、評議員の名称が代議員(社員)に変更される、代議員数が最大300名となる、理事についても最大20名となる、社員総会(代議員会)が議事決定機関となる、地方会組織は定款には表記しない(地方会連絡協議会は施行細則に表記する)などです。これらを受けて、評議員から今後の地方会の在り方や運営に関する質問、会員総会の意義などについての質問がありました。地方会の在り方や運営に関する質問に対しては、公益社団法人では不明朗な会計などが発覚した場合には連座制による罰則が適用されるため、地方会を定款に表記せずリハ学会本体とは切り離して活動した方が安全であると判断され上記の

ようになったそうです。また、地方会に支給されている補助金については引き続き可能であるとのことでした。会員総会については、現行の総会と同様に開催して予算・決算などの報告や代議員会の決定事項の報告や会員からの意見を聞くなどが行われることになるとのことでした。

代議員選挙については、いままでの年齢や会員歴の条項が撤廃され、正会員であれば正会員2名の推薦で代議員への立候補が可能となるそうです。会員に対する公平性のため、このようになったとのことでした。名誉会員の選挙権についても質問があり、今後検討されることになりました。代議員選挙の実施時期については、公益社団法人への移行申請1~2カ月後に選挙が予定されているそうです(平成22年11月~12月)。しかし、移行申請後の承認に時間を要した場合には、現行制度の評議員選挙を行わなければならないことが報告されました。

以上、簡単ですがご報告させていただきます。紙面も限られているため、このような報告となりました。詳細につきましては、ホームページ等をご参照ください。

新幹事の抱負 Part1 新幹事の自己紹介です。経歴も専門領域もそれぞれ異なりますが、リハ医学にける熱意は大きく、近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。

逢坂 悟郎 兵庫県立リハビリテーション西播磨病院 リハビリテーション科、総合相談地域連携室



この度は、幹事会の仲間入りをさせていただきありがとうございます。私がリハビリテーション(リハ)医療に携わったのは平成5年に兵庫県立総合リハセンターに勤めてからです。平成8年からの10年間は、大阪府の箕面市立病院で回復期リハと地域連携に力を入れました。平成18年からは現在の病院に努めています。院内では脳卒中を中心とした回復期リハとNSTチーム活動などを行っています。院外では兵庫県西播磨・中播磨にまたがる脳卒中病院ネットワークの運営と、所属する回復期病院と在宅サービスの連携に努力しています。最近では、兵庫県下に10の脳卒中病院ネットワークが設立されたため、全ネットワークの合議体の設立に参加し、幹事として活動しています。現在、県医師会・県庁と歩調を合わせて、病院・在宅連携が全県的に広がるように調整を進めているところです。

大阪府から兵庫県に移ってからは、もっぱら地域医療連携に携わっているような状況ですが、リハ医学の発展が患者さんの幸福につながるためには、施設間の連携や在宅・施設の受け入れ体制が整っていることが必要であると考えています。そのような側面から、リハ医学の発展に貢献したいと思います。よろしくお祈りします。

小西 英樹 葛城病院 リハビリテーション科



この度、日本リハビリテーション医学会近畿地方会の幹事を務めさせて頂くことになりました小西英樹と申します。昭和63年に大阪市立大学整形外科に入局させて頂き、救命救急医療や外傷や人工関節・電気生理検査など常に臨床医療を中心に活動しておりましたが、リハ医学に興味を持ち、諸先輩の姿を見様見まねで臨床活動をおこなって、臨床認定医・専門医・指導責任者などの資格を取ることができました。平成16年より和歌山県立医大リハビリテーション科の田島文博教授より指導を頂き、リハ医としての教育を受けて現在に至っております。未だに、リハ医としては不十分な点が多く、日々勉強が必要であることを痛感しております。また、臨床面だけで申しますと超急性期から維持期までの病院で勤務しておりましたので、障害学としてのリハ医学の必要性や各病期におけるリハ医の立ち位置などについての経験だけはしております。これからは全身管理のできるリハ医を輩出できるようにすること、近畿地方会学術集会などの更なる充実などに向けて、微力ではありますが努力したいと考えております。諸先生方におかれましては、ご指導の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

橋本 務 葛城病院 リハビリテーション科



新幹事として教育委員会に所属することになりました橋本です。昭和62年日本リハビリテーション医学会の認定医となって以来、リハ医学の重要性を強く感じ、専門医、研修施設の指導責任者としてこれまで努めてきました。本学会には、臨床神経生理学、脳卒中、回復期リハ病棟、地域リハなどに関する発表をし、現在も片麻痺の回復に関する研究を続けています。

ことに力を入れている地域リハビリテーション活動としては、平成12年、勤務先が泉州圏域の地域リハ広域支援センターに指定されて以来、泉州の地域リハシステムの構築を目指し、急性期病院から医療型療養病院までを繋ぐシステム構築に至っております。最近では、大阪府高齢者介護予防・地域リハ推進委員会の委員として、医療と介護を繋ぐ事業にも携わっております。また、泉州地域の高次脳機能障害ネットワーク活動にも医療側の立場から参加し、就労支援など協働して取り組んでおります。

青山 朋樹 京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻 リハビリテーション科学コース理学療法学講座



はじめまして。このたび名誉ある日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事を拝任しました京都大学の青山朋樹と申します。私は現在、理学療法士、作業療法士の卵の教育を主に行っておりますので第一線でリハビリテーション医療を実践しておられます皆様の足手まといにならないようがんばってまいります。

さて最近はいろいろな分野で地方と中央の位置関係が変化しております。情報の透明化の結果、存在意義をそれぞれに主張する必要性が生じているという解釈も成り立つかもしれません。しかし多くの分野でそうであるように日本リハビリテーション医学会における利用者であります学会員や患者さんもシームレス化を望んでいるという事も現状かと思えます。現在の自分の中でなができるかはわかっておりませんが、田中一成新幹事長の下、努めてまいりたいと思っておりますので、皆様の御指導、御鞭撻の程をお願いいたします。